

# 「人生を楽しむ」

第10号

発行 白馬中学校

<https://hakubajh.ed.jp/>

人権月間 11月 november

2024 SPECIAL

BOSS TALK

白馬中 秋の校長講話

## 10月30日(水)「BOSS TALK 秋の校長講話」

みなさん こんにちは！ 校長講話 通称ポストークの時間です。今日は2024年10月30日、令和6年もあと2か月あまりになりました。そういえば12日ほど前の越後さんの講演会、どうでしたか？講演会をするのは白馬中が生涯初だったのに、あんなに話が分かりやすく、身振り手振りで、工夫されたスライドを作成し、明るく楽しそうに話す姿に大変感動しましたよね。自分の好きなことに一生懸命打ち込んで、人生を楽しんでいる姿はとってもかっこいいなあと思いました。

★ここで“なかむらの視点”です。★ 講演後に越後さんにこんな質問をしました。「ニュースキャスターはやらないのですか？なぜ気象予報のキャスターなのですか？」と。みなさん越後さんは何と答えたと思いますか？「ニュースキャスターは時々自分が思っていないことも放送局によって言われることがある。でも気象キャスターは自分で調べ判断したことを、伝えたい相手を思いながら自分らしく話すことができるから」。この言葉に心を奪われ、さすが歌う気象予報士、プロだなー、すてきだなーと思いました。そんなところにあこがれた部分もありますが、私もこれをきっかけにオカリナを卒業し、ギターに挑戦しよう決めました。そんな秋を過ごしている校長の今日この頃です。皆さんはどんな秋を過ごしていますか？

今日は明後日から始まる人権月間に関連してちょこっとお話をさせていただきます。最初に大空小という大阪の学校で「全校道徳」の授業をやった先生から教えてもらった話です。1年生から6年生までが一人ずつ入って編制したグループで対話をします。大人は大人のグループで対話するのですが、この時

### 問い『人権って？』

ほど子どもと大人の言葉の違いを痛烈に学んだことはなかったそうです。この日の問いは「人権って？」です。大人たちは「人権とは〇〇〇」という感じにスマホで調べると出てくるような正解を語

りました。例えば人権とは「人の持つ権利」誰もが生まれながらに持っている、人間が人間らしく生きていくための権利人権は、すべての人が、いつでも、どこでも、同じように持っている認められ、平等にそして無条件に、尊重されるみたいな感じです。ところが、半数ほどの子どもグループは「人権って空気だよ」「人権は空気」と語るのです。理解できない大人が「どうして人権が空気なの？」と質問しました。すると、座っている子どもたちの誰もが口々に「だって空気がなかったら、人は死んでしまうよ」と言ったのです。子どもを主語に「人権」を語ると、

「空気をつくる」ことだったのです。そのときから、「空気をつくろう！」が合言葉になり、気づくと、指示・号令・命令の言葉は教室でなくなったそうです。今、白馬中の空気はどうでしょうか？教室の空気、授業の空気、休み時間の空気はどうですか？できることならきれいでおいしい空気を学校に充満させたいですよね。だってそこにいるすべての人が同じ空気を吸っているのだから。そのためには定期的にすべての生徒と先生でおいしい空気をつくるために、悪しき事柄(小さな差別とか、いじめのもと、困りごとなど)を問い直し、全校生徒と全教職員で最上位の目標を確かめながら、生活していくことが大切だと思うんです。

### 『白馬中の空気は？』



最上位の目標とは『学校目標:人生を楽しむ、教育ビジョン:愛のある学校』ですよね。学校教育目標『人生を楽しむ』教育ビジョン『愛のある学校』でスタートした今年。小さな差別やいじめは悪意のないところから生まれると言われます。学校は社会の縮図！だから学校っていうところは、色々な人がいて良い所。フラットにみんなで意見を言いあい、楽しく幸せな人生を歩むために、自分たちで学び、考え、行動していく。そういう体験ができる場であってほしいと思います。そのために私たちはおいしい空気づくりに注意を払い、生徒と先生たちで学びのマインドセット(今までの固

別の学校のある先生が教えてくれた話。「あのね、人はすぐ誰かにラベルを貼りたくなる。たとえば『陰キャって言われて嫌なんだよね』と打ち明けてくれた中学生が私のところに来たんです。一度決められちゃったキャラが、なかなか変えられない!!!と悩んでいる人? みなさんもこんな経験ありますか?人はラベルを貼って安心する傾向があるんです。

たとえば台所で白い粉末が入った容器に『砂糖』ってラベルが貼ってあれば砂糖だと信じて疑わず、確かめずに料理に入れる。でも、もしかしたら、ラベルと中身が合っていないことだってある。食塩は

『一枚のラベルでその人の全部を  
表せるなんてことはない』

NaCl のラベルで表すのが正解だけど、人間はそう簡単ではない。一枚のラベルでその人の全部を表せるなんてことがない。ラベルで見えなくなるものが多すぎるので、人にラベルを貼らないほうがいい。ただね、すべての人に貼っておいて欲しいラベルが2枚あります。宅急便などで見かけることがあるかもしれない。何だろう。お友達と相談してみてください」「そう、その通り。『壊れもの、われもの』人はちょっとした言葉や仕打ちで心が傷つき壊れる。誰でも等しく、壊れものなんだよね。そして、もう一枚のラベル

は、よく美術館の美術品輸送のときなんかには貼られています。『貴重品』です。これは世の中に一つしかない貴重なもの。大事に運ぶんだよ、という意味です。あなたにも、私にも、替わりはいない!だから私もあなたも、われもので貴重品。」そんな話を教えてくれました。これを聞いて自分自身を振り返ると、私はこれまで、たくさん子どもたちや大人たちと関わってきて、その人たちも、自分も、すべての人を「壊れやすくて替えがきかない存在」だと考えていただろうか。いつもそうできたかといえば、私はちょっと自信がありません。世の中では、色々な人たちが色々なことを考えながら、自分のペースで今、必死に、生きています。

そして、『みんな楽しく幸せに生きたい』と思っている。みなさんだって学校生活や家でも、必死で頑張ってますよね。周りからはどう見えているかは色々かもしれないけれど、私自身も自分なりに校長という任務を必死に楽しみながらやらしてもらっているつもりです。みなさん、どうか、壊れやすくて替えがきかない自分や他者を意識して、みんなの幸せのために、楽しい人生のために、まずは白馬中から良い空気を作っていきましょう。

じゃあどうすればいいの?となるけれど、偉そうなことは言えませんが、やっぱり心がけ次第かなと思います。そこで、ちょっと私の心に響いた「おもいやり算」というのを紹介しますね。もともとこれは2012年ACジャパンという公益社団法人(広告を通して公共マナーや環境問題といった様々なテーマで社会にメッセージを発信している会社)から発表されたものですが、この手の素晴らしいメッセージは拡散される時代でもあるので、皆さんも一度はみたことがあるかも知れませんね。

自分が笑顔になるから他人を笑顔にできる。  
笑える人生を歩もう!

### 『おもいやり算』～人を笑顔にする算数～

- + 「たす」けあうと大きな力に
- 「ひき」うけると喜びが生まれる
- × 声を「かける」と一つになれる
- ÷ いた「わる」と笑顔が返ってくる

□に入る言葉はわかりますか?それにしても、良くできていますね。「+」は足し算、「-」は引き算、「×」は掛け算、「÷」は割り算。これを「+」は助け合う、「-」は引き受ける、「×」は声をかける、「÷」はいたわる、ということですね。助け合うと大きな力に、引き受けると喜びが生まれる、声を掛けると一つになれる、いたわると笑顔がふえる。確かに「思いやり」は、それが行き過ぎれば「おせっ

かい」となってしまう、何もしなければ「無関心」となってしまいます。その距離感が難しいのですが、算数の四則をアイデアに「おもいやり算」を使うと誰もが笑顔になれるよ、というわけなんです。この「おもいやり算」という視点は、学校やクラスにおいても全く当てはまるものです。一人ひとりがセルフチェックをして、そしてお互いにそんな空気感が教室に充満するようにしよう!とみんなで取り組んでくれたらいいなあと思います。みなさんは助け合うことが出来ていますか?仕事は喜んで引き受けていますか?コミュニケーションは出来ていますか?周りへの配慮や気配りが出来ていますか?完璧じゃなくてもいいんですよ。そう簡単に理想通りなんて行かないかもしれないけど、今日から改めて「おもいやり算」を自分なりに意識して、できることからでいいんじゃないかと思えます!今日のまとめ(教訓)は自分が笑顔になるから他人を笑顔にできる。さあ、笑える人生を歩もう!です。明後日からの人権月間。まずは笑顔でみなさんと挨拶することから私は頑張ってみようかなあと思います。いや、あいさつは頑張るものではありませんね。自然な挨拶を通して、思いやりの気持ちを声や姿で伝えながら、心のキャッチボールをしたいと思えます。爽りある人権月間になることを期待して終わります。しっかり話を聞いてくれてありがとう。